

たて いわ
立岩地区

人口:756人(高齢化率59.9%)
世帯数:425世帯

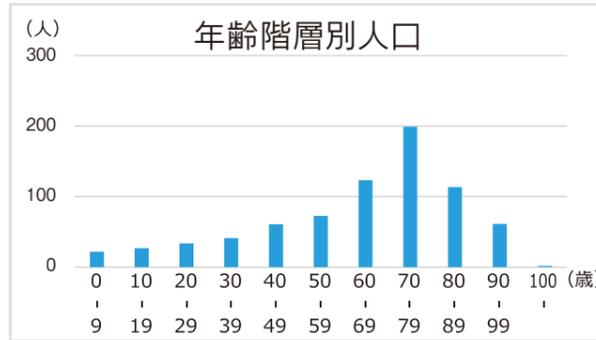


【地区の特色】

高縄山の北側、立岩川流域の18地区からなる立岩地域は、豊かな自然に囲まれた山間ののどかな山村地域である。子どもから高齢者まで地域住民全員参加の運動会、文化祭、スポーツレクリエーション、交流活動等が多数開催され、毎年5月には山一面につつじの花が咲き誇る貫之山を地域のシンボルとして守り育てている。



立岩つつじまつり



【地域住民からみた地域の状況】

地区の強み	地区の弱み	地域が抱える福祉課題
<ul style="list-style-type: none"> ・少人数のため、各家庭の状況を皆が把握している ・区長会が機能している(町内行事参加率約98%) ・公民館の活動が活発→区長会が協力 ・地区内の関係団体等の連携がとりやすい ・自然が豊か 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、高齢化傾向が顕著 ・高齢化率約60%(80歳以上の割合が問題) ・若者が少なく諸行事が負担になる ・子どもが減り後継者がなく、獅子舞をやめた ・緊急車両が入りにくい道路がある ・働く場所がない ・自然が多いため、災害の危険がある(地すべり、傾斜が多い) ・車がないと外出が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に集まれる場所がない ・自然災害時の危険箇所(120カ所)の不安 ・大雨時、避難場所が利用できない場所にある ・高齢者の避難方法が不安 ・車がないと外出が困難(買い物、通院、集まり、畑など) ・道幅が狭く、緊急車両が入りにくい場所がある ・子どもが少なく、行事ができない、若手不足で負担が大きい ・公民館・集会所の和室は、高齢者や足の悪い方は利用しづらい

立岩地区社会福祉協議会 よりそい、気配り、支え合い—笑顔あふれる花垣の里—

構成団体	地区民協・公民館運営審議会・公民館・福祉施設・日赤奉仕団・小学校・みまもり員 青少年健全育成会・PTA・スポーツ少年団・JAえひめ・交通安全協会・学識経験者
------	---

主な取り組み	活動内容
福祉だよりの発行	年1回作成し、地域福祉に関する情報を発信するために全戸配布しています。
給食サービス(花垣弁当)	毎月1回、独居・寝たきり高齢者の希望者に対し、安否確認をかねて弁当とおやつを配っています。※紀貫之来遊伝説より立岩地区を「花垣の里」といわれたことから「花垣弁当」と名づけられました。
小学校との交流	小学生と地域住民が、小学校の校舎や校庭の清掃活動やもちつきを一緒にやり交流をしています。

いきいき健康教室

約20年続いているいきいき健康教室。2ヶ月に1回、地域内の福祉施設と公民館と協力し、健康に関する講座や調理から行う栄養教室、身体を実際に動かしての体操教室を開催しています。時には、ゲームや物づくりをするなど、地域住民誰もが楽しめる場となっています。



<地区社協が目指すもの>

立岩地区は、高縄山北側の山間地域です。ますます高齢化が進み、不安な課題もありますが、ふるさとを大切にする住民の熱意と結束は、とても強い地域です。つつじまつり・夏まつり・住民参加の運動会・公民館まつり等多くのイベントがあり地域内・地域外を含め交流の場となっています。準備を含め助け合い・支え合い精神を育む場となっています。地区社協の活動として、まつイチ体操・いきいき健康教室・地区でのサロン活動等を通じ、健康増進・ふれあいの場づくり・機会づくりをし、地域でいきいきした暮らしができるよう応援します。

地区の状況	■地区民協		■町内会・自治会・区長会等	
	民生委員	5名	高年齢クラブ	0クラブ
主任児童委員	2名	子ども会	0団体	
■まち協の設立	平成30年度	■自主防災組織	12組織	

中山間地域で人口減少や住民の高齢化が課題としてありますが、豊かな自然と住民同士の支え合う力や、高いネットワーク形成力を活かし様々な地域活動が盛んな地区でもあります。年間を通して実施される配食サービスでの独居・寝たきり高齢者の安否確認や、小学校と地域住民との清掃活動、餅つきといった季節行事を通しての交流会、つつじまつり開催など地区の特性を活かして高齢者の孤立化防止や、伝統行事・文化の継承に取り組んでいます。こうした普段の暮らしから派生する行事や交流の継続が、地域力を高め防災や防犯につながる力を培うことでしょう。

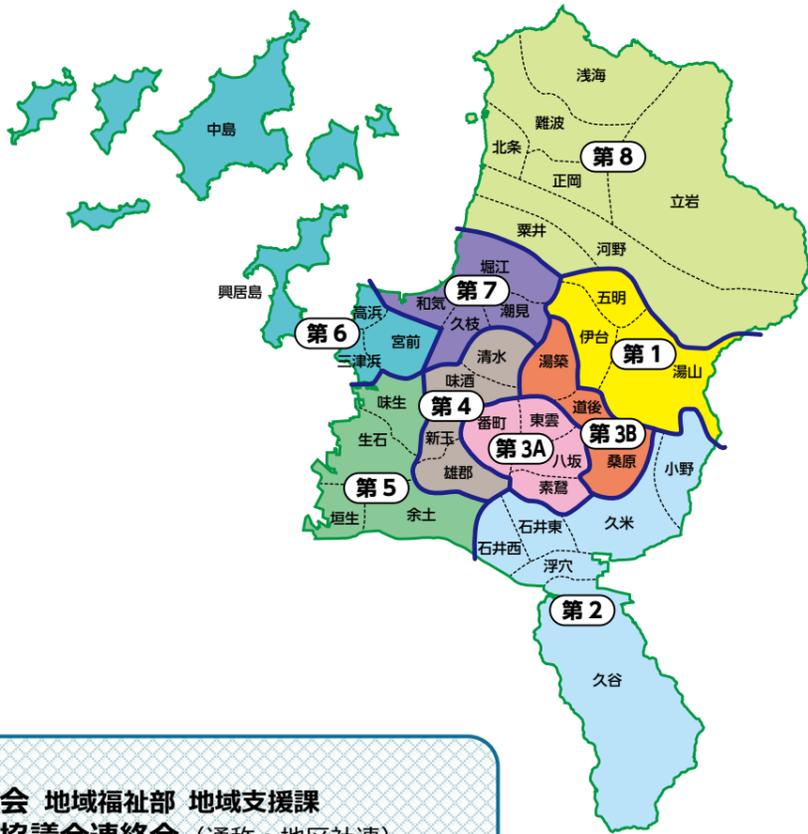


地域カルテ ～地区ごとにみる地域特性～

『地域カルテ』とは

日常生活での不安や悩み、生活課題が複雑化する中、私たちが安心して暮らせるまちづくりに取り組むためには、まずは自分たちが生活する地域を知ることが必要です。自分たちの地域が今どのような状況にあるのか、いわゆる地域の健康状態の記録（カルテ）を作成することで、その時々自分たちの地域の強みや弱みを把握するとともに、地域の魅力や課題を共有することにより、住民の地域福祉活動への参加意識の醸成と今後の活動の活性化につなげることが可能となります。今後は小地域ごとに様々な視点から、より詳細な地域分析を行い、それらをもとに地域の特性に応じたまちづくりに取り組んでいくものです。

第1	五明地区	第6	宮前地区	第8	浅海地区
	伊台地区		三津浜地区		立岩地区
	湯山地区		高浜地区		難波地区
第2	久米地区	第7	潮見地区	第8	正岡地区
	浮穴地区		久枝地区		北条地区
	小野地区		和気地区		河野地区
	石井東地区		堀江地区		粟井地区
	石井西地区				
久谷地区					
第3 A	番町地区	第4	雄郡地区	第5	雄郡地区
	八坂地区		新玉地区		新玉地区
	東雲地区		清水地区		清水地区
第3 B	道後地区	第4	味酒地区	第5	味酒地区
	湯築地区		桑原地区		桑原地区
第4	雄郡地区	第5	雄郡地区	第6	雄郡地区
	新玉地区		新玉地区		新玉地区
	清水地区		清水地区		清水地区
第5	余土地区	第6	垣生地区	第7	垣生地区
	垣生地区		生石地区		生石地区
	生石地区		味生地区		味生地区
第6	余土地区	第7	垣生地区	第8	垣生地区
	垣生地区		生石地区		生石地区
	味生地区		味生地区		味生地区



発行日 令和6年4月
発行 松山市社会福祉協議会 地域福祉部 地域支援課
 松山市地区社会福祉協議会連絡会（通称：地区社連）
 〒790-0808 松山市若草町8番地2
 TEL 089-941-3828 / FAX 089-941-4408
 Webアドレス <https://www.matsuyama-wel.jp/>
作成 地区社会福祉協議会 / 松山市社会福祉協議会

掲載情報は随時、追加・更新し、各地区の地域福祉推進に活用していきます！

<『地域カルテ』の見方>

①地区の概要

五明地区は、市内中心より北東に位置し、標高300mの中山間地域で自然に恵まれた地域である。花崗岩土壌と豊富な湿度がある立地条件を生かし、古くから心とう栽培に取り組んでいる。また、五明太郎などの「五明太郎」が自然発生の「五明川が流れており、清流に憩っている。

人口：426人(高齢化率48.8%)
世帯数：225世帯

②地域住民からみた地域の状況

高齢者が多く、この地域が把握できる一家庭内の事情がある程度わかっている。個人で生活する中、物価の値上げや、移動サービスが来るまでの移動、通学時間は遅くも20～30分で市内中心部へ行く。自然が豊かで季節を感じることができる。食への関心(コンド)が強い。自主防災と連携し、災害時の避難の仕組みを作っている。集会所が利用できる。田舎暮らしなど地域の子どもの交流。

③地区社協の概要と取り組み

五明地区社協は、公民館をはじめとする地区内の団体と連携し、自主防災訓練、奉仕活動、まちづくり、健康講座、高齢者支援、しめつけ、もちつき、ふるさとまつりなどの地域行事と連携した地域活動の実施を基本方針としている。今後の目標としては、五明地区まちづくり協議会との連携をさらに深め、日常生活の困りごとを地域住民同士で支えあっているよう地域福祉活動の発信を目標にしていきたい。

④地区内関係団体データ

地区民協、まち協の設立、町内会等、高齢クラブ、子ども会、自主防災組織の状況。

⑤地域福祉推進のポイント

聖カタリナ大学 教授 村岡則子氏をはじめとする学識経験者のみなさまから地域福祉推進に向けたコメントをいただいております。

- ①地区の概要
 - 人口、世帯数、高齢化率は松山市地区別推計人口、また、年齢階層別人口は松山市地区別年齢別住民基本台帳登録の令和5年4月1日現在のデータを記載しています。
 - 地区の特色は松山市公民館連絡協議会ホームページを参考にしています。
- ②地域住民からみた地域の状況
 - 研修会のワークショップや会議の意見として、地区社協関係者や民生委員・児童委員をはじめとする地域住民の方々から出された内容をまとめて記載しています。
- ③地区社協の概要と取り組み
 - 令和5年度現在の各地区社協の活動状況及び地区社協が目指すものを記載しています。
- ④地区内関係団体データ

■地区民協	令和5年4月1日現在の定数
■まち協の設立	令和5年9月1日現在の設置状況
■町内会等	令和5年度町内会等状況調査(基準日:令和5年6月1日)
■高齢クラブ	松山市高齢クラブ連合会登録数(令和5年7月1日現在)
■子ども会	令和5年度松山市子ども会連合会加入数(令和5年5月1日現在)
■自主防災組織	自主防災組織 地区別結成状況(令和5年4月1日現在)
- ⑤地域福祉推進のポイント
 - 聖カタリナ大学 教授 村岡則子氏をはじめとする学識経験者のみなさまから地域福祉推進に向けたコメントをいただいております。
 - 《ご協力いただいた聖カタリナ大学の先生方》教授 釜野鉄平氏、助教 雑賀正彦氏、助教 鬼頭裕美氏